



第11回「湖医会賞」受賞記念講演・「湖医会」総会

10月28日(日) 13:00～ 滋賀医科大学臨床講義棟第1講義室

CONTENTS

「湖医会賞」を受賞して	横田千晶・北澤彰浩	2
卒業式に参列して	中島滋美	5
退任教授「在任中の思い出」	早島 理・佐藤 浩	6
海外からのメッセージ	伊藤史人	8
支部会 鹿児島支部会	迫田 悟	10
地域の病院に想う	竹下和良・小野孝彦	11
看護学科交流懇談会	河村 翼・護法亜葵・田村明音	14
学生活動支援事業	各クラブの紹介	15
事務局から	総会の案内 ほか	20

第11回「湖医会賞」を受賞して

小中学生への脳卒中啓発の試み ACT FAST!



国立循環器病研究センター 脳血管内科医長

横田 千晶 (医8期生)

脳卒中は、わが国における要介護の原因疾患の第一位である。超高齢社会を迎えたわが国において、脳卒中発症予防と後遺症軽減は大きな社会的課題である。脳卒中発症予防には、若年からの適正な生活習慣と危険因子コントロールが、脳卒中後遺症の軽減には、脳卒中発症後早期からの治療介入が不可欠である。2005年10月より、わが国においても脳梗塞超急性期患者に対する遺伝子組み換え組織プラスミノゲンアクチベーター (recombinant tissue plasminogen activator; rt-PA) 静注療法の国内承認がなされた。わが国でのrt-PA静注療法開始は3.0時間から4.5時間以内と延長されたが、発症後の血行再開療法は”much sooner is much better”と言われ、可能な限り発症早期の病院到着が望まれる。発症後の病院受診までの遅れを最小限にするには、「脳卒中発症に気づくこと」、「脳卒中発症後の対処」が極めて重要なポイントである。

我々は平成22年度より、国立循環器病研究センター内の研究費(循環器病研究開発費、主任研究者 峰松一夫)により、中学生を対象とした脳卒中啓発活動を開始した。中学生を対象とする目的は、若年からの生活習慣を是正することによって、脳卒中の発症予防が図れること、さらには、両親や祖父母が脳卒中になった際、bystanderとして適切な対処を可能とさせ、家族に対する脳卒中知識の間接的な啓発も期待されるからである。

脳卒中啓発活動の実際は、医師による脳卒中危険因子およびFASTメッセージを伝える「脳卒中教室」(45分間授業)と脳卒中啓発教材の配布を行った。FASTメッセージとは、F=face(顔)、A=arm(腕)、S=speech(言葉)、T=time(時間)の「F」「A」「S」で表される3つの徴候のうち1つでもあれば脳卒中の可能性は72%であり、こうした症候が出現したらすぐに時間「T」を確認して救急要請を行わねばならないというものである(Kothari RU,

脳卒中啓発アニメDVD・マンガの作成 知ってることで救われる!?～脳卒中って?～



(図1)

脳卒中啓発教材



(図2)

et al, Ann Emerg Med 1999;373-378)。脳卒中啓発教材としては、京都精華大学マンガ学科との共同開発によりFASTメッセージが示されたマンガ小冊子、DVD（図1）、ポスター、メモ帳、ボールペン、クリアファイル、マグネット（図2）などを作成した。中学生に対するこうした脳卒中啓発活動により、介入直後、介入3ヶ月後も、生徒のみならずその保護者にFASTメッセージが保持されていた（天野達雄、横田千晶、他、脳卒中の外科39：204-210.2011）。しかしながら、医師による啓発活動のみでは全国に広めるには限界がある。そこで我々は、学校の先生に脳卒中啓発授業を行い、学校の先生から生徒に脳卒中啓発を拡げる試みを行った。その結果、学校の先生による脳卒中啓発授業は、医師が行ったのと同様に、生徒にFASTメッセージを伝えられことが検証された。（Miyashita F, Yokota C, et al. International

Stroke Conference 2012, New Orleans, USA, Feb 1-3, 2012) 更に、公立中学校1校を対象として、我々が作成した脳卒中啓発DVDやマンガを配布のみでも、FASTの啓発効果が得られることを確認した。これらの結果を受けて、本年9月～脳卒中啓発マンガ冊子、DVDを吹田の全公立中学校に配布し、脳卒中啓発効果を検証することになった。また、厚生労働科学研究費「慢性期ハイリスク者・脳卒中および心疾患患者に適切な早期受診を促すための地域啓発研究」（主任研究者：宮本恵宏）、脳卒中協会との共同研究で、栃木県（脳卒中死亡全国1位）の特定の地域の全公立中学校にも同様に啓発教材を配布し、啓発効果を検証する予定である。

現在、脳卒中啓発教材（DVD、マンガ）の小学校版の作成と小学校への啓発介入にも着手した。

「医療の民主化」をめざして



佐久総合病院 地域ケア科医長
北澤 彰浩（医12期生）

この度は第11回湖医会賞を授与いただき、身に余る光栄と心より感謝致しております。

御推薦頂いた、堀出直樹先生、大村寧先生また選考委員の諸先生方には心より御礼を申し上げます。

表題の「医療の民主化」は、私が現在働いている佐久総合病院の故若月俊一名誉総長の言葉です。若月先生はこの地で「医療の民主化」を実現するために昭

和20年から約60年間活動をされました。若月先生は農村医学を確立し日本農村医学会を設立、日本全国に先駆けて予防のための集団健康検診を開始等の業績でアジアのノーベル賞と言われるマグサイサイ賞を受賞されました。しかし、その先生が退職の時に言われたのは「私はこの地の医療の民主化を2割か3割しか実現できなかった。」というものでした。若月先生をして2割か3割と言うことはそれ以上にするのは困難であることを自覚しつつも、若月先生がめざされた目標を少しでも進めることが、佐久総合病院の使命だと考えるようになりました。そこで、おこがましくも私も自分が出来る範囲で「医療の民主化」をめざそうと活動をしています。

私が行っているのは在宅医療です。そして、在宅医療を通して「医療の民主化」のために「医療の定義」を変える運動や「死生観の多様性」を認めてもらう運動を行っています。訪問診療は基本的に月1回です。原疾



訪問風景

患は脳血管障害や認知症が多く最近のがんも増えていきます。いずれの方も予後は厳しい状況であり訪問診療は単に臓器や疾患を診て病状を安定させるだけでは全く意味がなく、その方の今までの人生を含めた人となりを理解した文字通り「全人的」な関わりを求められます。そして、その方の最期の時をその方が望む形にしなければなりません。そのためには、死ぬ前に自分の最期のことを考え、家族に伝えることが出来る環境をつくらなければいけません。最期の場所を病院と考える方の希望を叶えるのは簡単ですが、自宅を考えておられる方の希望を叶えるのは困難です。というのは、在宅死を叶えるには終末期における日本人の死生観が影響しているからです。日本では「死」を敗北と捉える考え方が大半を占めています。つまり、「死(敗北)」はどのような状況下においても極力避けるべきであり、「一分でも一秒でも長生きする」事が大事と考えています。そうすると、当然十分な医療処置の行える病院の方が在宅より「一分でも一秒でも長生きする」ことを叶えるので人は病院での最期を選びます。しかし、病気になった時に本当に最期を病院で迎えたいと思うかは私が関わった患者さんの経験からは決してそうではありません。可能なら在宅でという方が多いのですが、「死」を敗北と捉える状況下では家族が本人の希望より日本人の大半を占める死生観に従っているように思えます。以上のことから私は、「死」を「敗北」と捉えるのではなく「人生の集大成」と捉えるべきだと考えます。そして、ただ単に「一分でも一秒でも長生きする」ことだけが重要ではなく、人によっては「その人らしく最期まで生き、その結果その人らしい死(集大成)を迎える」ことがその人の最期にふさわしい満足死になるという考え方があってよいのではないで

しょうか？そして、この考え方が日本の多くの方に死生観のひとつとして受け入れられるようになればと考えます。

そのためには現在の「医療の定義」を変えないといけなくなります。現在の医療の定義は広辞苑によると「医術で病気をなおすこと」です。だからなおらない結果の死は敗北なのです。つまり、新しい医療の定義を「人にその人らしい人生を過ごしてもらうために医術で病気をなおすこと。ただし、なおらない病気の時は最期までその人らしく生きていただくために寄り添い支えること。」と変えると、死は敗北でなくなります。

「医療の民主化」とは「人がその人らしく生きるために身体を自己管理し、周りの人はその人がその人らしく生きられるようにそれぞれの立場で見守り寄り添い支えること」です。そのような世の中になって初めて人は「自分たちの健康問題を自分たち自身で取り上げ、自分たち自身で解決の道を探れるようになる」のではないのでしょうか。

最後に、今回の受賞は職場と地域の多職種の仲間と地域住民の皆様ののおかげと感謝しております。そして、どんな時も私のことを支えて助けてくれた私の家族にも心から感謝したいと思います。皆様、本当に有り難うございました。



若月俊一先生と日本農村医学会(於軽井沢)にて

卒業式に参列して

「湖医会」副会長 中島 滋美 (医2期生)



3月9日に「湖医会」会長の代理で卒業式に出席させていただきました。教職員の皆様、ご来賓の皆様には、後輩を立派に育ててくださいまして、まことにありがとうございます。

卒業生の皆さんは、この日をもって真の意味で「湖医会」正会員になりましたので、自覚をもってこれからの道を歩んでいただきたいと思います。

さて、同窓会からのお願いが3つあります。1つめは、常に心のどこかに滋賀医大の卒業生だという意識を持ち続けて、真摯な気持ちで医学・医療の分野において仕事をしてほしいということ、そして一般社会人として立派な人間になっていただきたいということです。とくに悪いことをしてマスコミに載るようなことはしないでください。そのかわり、特別によいことをしたら湖医会賞で表彰します。2つめは、卒後同期会にぜひ出席してほしいということです。私の経験では20年同期会はとてもよかったです。

3つめは、会費をしっかり払い、また「湖医会」が案内する募金や事業にご協力をお願いします。もちろん収入が少ない時は無理しないでよいですが、お金をある程度稼げるよう

になりましたら、「湖医会」あるいは母校に還元してください。

次に、久しぶりに母校の卒業式に参列して感じたことを書かせていただきます。まず、会場は多くの参列者がいらっ

しゃってびっくりしました。われわれのころは広い体育館に卒業生と教職員だけというものでしたが、今は卒業生の数が多いというだけでなく、ご家族のご参列が多く体育館は人でいっぱいでした。私も卒業生の親の年代となりましたので参列したい気持ちは理解できるのですが、昔とは考え方が変わったのかなあと思いました。さらに驚いたことは、女性の卒業生が多かったということです。今は半数以上が女性で、振袖や袴姿の人も多く、とても華やかな雰囲気でした。来賓の数も多かったのでびっくりしました。数年前から卒業生

の一部が招待され来賓として参列することになったということで、今回は8期生が3人参列してくれました(参列ありがとうございます)。次に会場が暖かくてびっくりしました。昔はとても寒い卒業式でしたが、今回は暖房器具があちこちに置かれ、来賓席にはお尻の下にホットパックが敷いてありましたので、むしろ暑いくらいでした。そして、さらに驚いたことは、日の丸が掲げられていなかったことです。正面には国旗ではなく学旗が掲げられていました。いろいろ議論はあると思いますが、少しさびしい気持ちがしました。また、学長の握手を拒む学生もいたのでびっくりしました。恥ずかしいとか手を出されたタイミングが悪かったということもあるかと思いますが、卒業式の学長の手の感触、つまり、強く握られた感触は、今でもしっかりと私の記憶に残っています。

卒業式に参列するのは、われわれ古い卒業生にとっても新鮮な気持ちになれるよい機会でした。卒業した頃の夢と希望と意欲にあふれた自分がいたことを思い出し、医療職をめざした初心を思い出しました。古い卒業生の皆さんも、ぜひ卒業式に参加してみてください。

医療文化学講座（哲学） 早島 理

2000(平成12)年4月に前任の長崎大学から滋賀医科大学に赴任しました。長崎大学の大学院修士課程立ち上げと重なり転出に手間取りました。当時の学長小澤和恵先生がわざわざ長崎大学まで出向いてくださり、両学長間の交渉で1年間は併任、しかも最初の院生が終了するまでの2年間は長崎大学の非常勤を勤めると言う条件で、長崎と瀬田を往復する日々を送りました。

赴任と同時に当時の教育担当副学長挾間章忠先生から、「医の倫理」を開講するようにとの指示がありました。「医の倫理」の領域のうち、終末期医療に果たす宗教者(我が国では特に仏教者)の役割に留意した講義を考えました。緩和医療ではキリスト教系の「ホスピス」活動が知られていますが、これに対応して仏教では「ビハーラ」と呼ばれる活動が始動しています。このビハーラで活躍している僧侶長倉伯博師を講師に招き、併せて全国からビハーラ活動を学び実践している方々の講義参加を認め(宗派を越えた僧侶を含む、毎年30人ほどが手弁当で参加)医学科4回生「医の倫理III」(必修)を開講しました。同時にこの「医の倫理III」と看護学科4回生「宗教学」(選択)、後には看護学科院生「看護倫理」も併せての合同講義形式で実施し現在も継続しています。このように、終末期の患者さんの全人的サポートを目的に、若き医学生と宗教者とが同一の講義を受講し、与えられた課題にそれぞれ異なる立場から意見を交換して相互に学び合う講義は、恐らく全国の医学部でもユニークなものではないでしょうか。これも挾間先生を始め歴代の教育担当副学長(馬場忠雄現学長、服部隆則現副学長)のご理解とご支援のお陰に他なりません。お礼申し上げます。



退 任

在 任 中

瀬田では单身生活仲間の久保岩男教授(生化学、現名誉教授)や佐藤浩教授(生物学)などの諸先生と食事やお酒を楽しみ、特に佐藤教授とは弥次喜多コンビで海外旅行にも出かけました。また日頃の不摂生が祟り在任中に一度だけ本学の病院に入院するハメになり、藤山教授や辻川先生(現総合内科学講座教授;現在の外来担当は中野恭幸先生)のお世話になりました。特に主治医の辻川先生に無理にお願いし病室を抜け出して講義に出かけたことなど、今となっては懐かしく思い出します。

在任中本人が気づかずにあれこれ失敗をしでかしてきたと思われまふ。それにもかかわらず、教職員の方々や学生諸君の暖かいサポートのお陰で、定年までの年月を居心地良く過ごすことが出来ました。皆様方のご厚情に改めてお礼申し上げます。

末筆になりましたが、国立の医科単科大学という特色を生かし滋賀医科大学がますます発展いたしますようお祈り申し上げます。

教授

の思い出



生命科学講座（生物学） 佐藤 浩

滋賀医大に23年間お世話になりました。本学に呼んでいただくまでは愛知県心身障害者コロニー発達障害研究所で18年間研究員をしていましたので、大学で教育ができるのか不安でした。助教授（准教授）の10年間は毎日、前任教授の土井田先生と昼食をご一緒して、教育のこと、大学のこれまでの歴史、研究のことなどいろいろお話を聞かせていただきました。雑談の中で、教員としての多くの基礎的なことを教えていただきました。教員としての「不安全感」は定年まで続きましたが、なんとかやってこられたのはこの時に受けた薫陶のお陰と思っています。

明快でない講義しかできなくて、学生の皆さんには申し訳なく思ってきました。学生の中には専門的な勉強をしてきた人も混じっていましたが、厳しい指摘はなく、逆にいろいろ配慮していただきました。期末試験では、私が作った「模範答案」より優れた答案を書く学生がいて、冷や汗をかきつつ、その解答を参考にさせてもらったことが何度もありました。

赴任したころの新入生が、大学院生としてもどってきても学内でばったり会って立ち話をしたときや、留学してもどって本学の教員になった姿を見たときなど、教員というのはよい職業だと思いました。入学時に講義を受け持った学生と大学院で一緒に研究をすることなど赴任当時は思ってみせんでしたが、そんな経験ができたことも私にとっては印象深く、とてもうれしいことでした。

滋賀医大で40代の前半から60代半ばまで、聡明な若い人たちと一緒に過ごせたのは幸運でした。高校を出たての若い人が医療人として立派に育っていく姿を見て、自分の人生の最も大事な時期を滋賀医大で働かせていただいたことにとても感謝しています。





5Ps for Success in Academic Surgery

Assistant Professor of Surgery
University of Michigan Health System



伊藤 史人 (医15期生)

皆さん、こんにちは。15期生の伊藤史人です。滋賀医科大学を卒業して15年以上、またアメリカ在住12年目となり、時の経つ早さに驚いています。この度、私のアメリカでの仕事、生活に関して原稿を依頼されましたので、簡単にここに記したいと思います。

私は大学卒業後、滋賀医科大学病院、京都第一赤十字病院で外科研修を終え、滋賀医科大学大学院に入学致しました。大学院在学中にミシガン大学に研究留学する機会に恵まれ、2年半研究を致しました。その研究留学中にアメリカでの外科レジデンシーにチャレンジすることを決意、ECFMG certificateを取得し、幸運にもシアトルのワシントン大学でのポジションを獲得することができました。ミシガンでの研究任期終了後、外科レジデントとしての生活がスタートし、最初の2年間でワシントン大学病院、最後の3年間でウィスコンシン大学病院で研修致しました。その後、ニューヨーク州バッファローのローズウェルパーク癌センターで外科腫瘍学のフェローシップを終えました。現在、私はミシガン大学外科にて、2011年7月よりスタッフとして勤務しております。

ミシガン大学は1817年にデトロイトに創立されたア

メリカで最も歴史のある州立大学の一つで、20年後に現在のアナーバーに移転されました。その後、発展を遂げ、全米のみならず、様々な分野で世界的な評価を得る研究機関型総合大学になっています。研究だけでなく、"The Big House"と呼ばれるアナーバーの人口と同じ11万人を収容できる世界最大のアメリカンフットボールスタジアムを有し、カレッジフットボール、アイスホッケーをはじめとするスポーツが盛んです。ミシガン大学医学部、大学病院はそれぞれUSニュース& ワールドレポートで10位(州立ではカリフォルニア大学サンフランシスコ校に次いで2位)、14位にランキングされ、医学教育、研究、臨床すべてにおいて全米トップクラスの水準を長年にわたって維持しています。



ミシガン大学外科の歴史は外科医であり解剖学者であったDr. Moses Gunnが教授として就任した1850年に始まり、特に最近では下肢、骨盤内静脈に発生した血栓を下大静脈で捕捉し、肺動脈塞栓症の再発を防止する下大静脈フィルターを発明した、Dr. Greenfieldの元でさらに飛躍的に発展し全米を代表する外科学講座となりました。私もDr. Greenfieldには以前お会いしたことがあり、その際にサインしていただいた“Greenfield’s Surgery”は改訂を重ね、現在も外科学を学ぶ医学生、レジデントにとって欠かせない教科書となっています。

以前にポスドクとして勤務していた時とは異なり、現在は外科のスタッフとして働いているのですが、スタッフといっても、日本と違ってこちらの契約は一年ごとの更新で、tenure（終身在職権）が取れるまでは依然として不安定な身分であり、極端に言えば来年どこで働いているかもわからない状況です。医学部、各講座は高水準の医学教育、研究、臨床を維持するために、スタッフに対し様々なフィードバックを用意しており、論文執筆、学会発表、グラント獲得数、手術件数を含む医師の業務量、診療費、病院や医学部などの委員会などの参加、レジデ

ント、医学生からのシビアな評価などにより、毎年の年棒、契約が左右されます。大学病院で教育、研究、臨床に優れたAcademic Surgeonとして成功するのが難しいことは、ミシガン大学に限ったことではないようです。言うまでもなく、成功するための単純な秘訣はありませんが、先日、講演に訪れた他大学外科学講座の主任教授は、「私は現在までに多くの外科医を見てきたがAcademic Surgeonとして成功するには5P：Passion（情熱）、Perspiration（努力）、Plan（計画性）、Persistence（粘り強さ）とPartner（恩師を含む仲間）の存在が特に重要だ」と述べていました。アカデミックプレッシャーを受け続けるストレスの多い毎日を送っていますが、そばにいてくれる妻と子供達、日本で応援してくれる家族や仲間、日本やアメリカでお世話になった恩師への感謝を胸にこれからも頑張っていこうと思っています。

レジデント、フェローになるまでの過程は「外科診療に見る医学留学へのパスポート」（日米医学医療交流財団）に寄稿する機会に恵まれ、一冊を滋賀医科大学図書館に寄贈させていただきました。もしご興味のある方は参考にいただければ幸いです。



Harborview Medical CenterのERにて

■支部会 鹿児島支部会

鹿児島支部会の開催

愛甲医院 理事長 迫田 悟 (医1期生)

鹿児島在住の滋賀医科大学卒業生が一同に集まり、糖尿病内分泌・腎臓・神経内科(旧第3内科)の西尾善彦先生が、鹿児島大学大学院糖尿病・内分泌内科学教授にご就任されたお祝いをしてからもうすぐ1年になります。

教授ご就任後の多忙な日程のなか、先生にスケジュールの調整をしていただき、8月4日18時から鹿児島市の城山観光ホテルにて、2回目の鹿児島支部会を開催しました。

今回は、出席予定の先生方から事前に糖尿病に関する疑問や質問を募集し、西尾教授にレクチャーしていただくという形式で行いました。出席予定の先生方からは13項目の糖尿病に関する質問を頂きました。西尾教授は、一つ一つの質問に丁寧に答えながら、糖尿病についての基本から最新の話題まで、スライドの枚数が60枚近い、熱のこもった講演をしてくださいました。私自身、糖尿病の講義を受けるのは卒業以降初めての経験で、とても新鮮な気持ちで西尾教授の講演を聴き入っていました。

講演終了後、隣に用意された懇親会場に移動して、医1期生の田畑富士男先生の乾杯の音頭で飲食を共にしながらの歓談を始めました。楽しい時間というのはなぜか早く過ぎてしまいます。21時30分過ぎに医7期生の河野史代先生(旧姓米永先生)の一本締めで懇親会を終了しました。

懇親会終了後は、ホテル最上階のスカイラウンジで、少しリッチな気分になりながらの二次会で、しばしの間、目の前の飲み物のグラスに口をつける暇もないくらい、おしゃべりが続きました。23時頃に記念写真を撮影して、二次会をお開きにしました。

現在、鹿児島県内には12名の滋賀医科大学卒業生が活躍中です。当日は9名の先生方が出席されました。

講演会場で出席者全員で撮影した写真、左から吉井理一郎先生(医29期生)、河野史代先生(医7期生)、小森園康二先生(医7期生)、中野静雄先生(医3期生)、西尾善彦教授(医5期生)、田畑富士男先生(医1期生)、迫田悟(医1期生)、木建直哉先生(医8期生)、牧優子先生(医17期生)です。

今回の鹿児島支部会は、武田薬品工業株式会社との共同開催にいたしました。各先生方への連絡、会場の手配、会場運営の援助などを快く引き受けてくださって大変感謝しています。やはり、二次会は鹿児島随一の繁華街である天文館で開催の方がよかったかな、と少し反省しながら、西南戦争で政府軍と戦った西郷隆盛の終焉の地、城山を後にしました。



地域の病院に想う

1

北海道医療巡業の旅



天塩町立国民健康保健病院 竹下 和良 (医6期生)

私が大津から北海道にやってきたのは2010年10月だ。奥尻島の奥尻町国保病院で究極の僻地医療、つまり離島医療を実現するために。北海道奥尻島、それは道南に位置し、

江差追分で有名な江差町沖の日本海に浮かぶ絶海の孤島だ。交通手段は二つ、一つは函館空港から空路で青苗地区にある奥尻空港へ向かう、もう一つは海路、江差港または夏限定だが瀬棚港からフェリーで奥尻地区奥尻港に至る。因に、関西から空路で向かうには途中1泊しなければならない、まるで海外旅行だ。空路は1日1便、海路は1日2便あるが、冬になるとしばしば両方とも塞がれてしまう。2、3日欠航が続くことはざらにある。島に1カ所のセイコーマートから、あっという間に食パンが消えて、牛乳が消えて、ヨーグルトも消えてしまう。食パンを有事に備えて冷凍するようになったのは島民から学んだ知恵だ。輸血も届かないので、緊急の場合は生血を採取して使うなんてこともある。なんで好き好んでこんな島に?と思うだろう。住めば都とはよく

言ったもので、存外と居心地が良い。ベ
ストシーズンはなんと言っても、ウニの
季節であろう。同時に天然物のアワビも
ありだ。ウニは7月頃が良い。うっかりお

盆の頃などに行くと漁期が終わってしまっている。アワビなどは、先生、私もぐって来たわ、と言って、五つ六つの大きな天然物を新聞紙にくるんで持ってくる強者ナースがいたりする。そうそう、新聞紙で思い出したが、朝刊が来るのがお昼頃に着くフェリー便だ。時化が続けば、届いた時点で資源ゴミ。つい、そんなことを口走ってしまい、住民からひんしゆくをかったことがある。冬はまた閉ざされた感じが良い。オジロワシやオオワシが道端の電信柱にとまっていたりするのである。時折、海面へ向かって飛び立つ姿が、なんとも格好が良い。島とはいえ、ここは北海道、ウインタースポーツもある。町営スキー場は病院から徒歩5分、ナイターもやっている所以仕事が終わってから一滑り。といっても、3、4回ターンするとすぐ下まで降りてしまうのだが。もちろんスノボもOK。

こんな島を後にすることになった。2011年9月のこと



冬の奥尻町国民健康保険病院

だ。意外に思うだろうが、僻地医療に従事している医者は、志が高い訳ではない。それを、内地からの流れ者医者と、私は呼んでいたが、高い給料と、楽な勤務条件だけを要求して居座っている不届きものの医者が結構いる。さっさと首にも出来ないらしい。公務



原野に続く道路

員の身分だからだそう。そんなこんなで、理想とする僻地医療を実現すべき新天地として、天塩町立国保病院にやってきた。天塩町は道北、北海道最北端の稚内から少し南の日本海沿いに位置する町である。北緯45度線にほど近い。島と違って陸上交通は24時間365日OKでは、などと思われては困る。夏はその通りだが、冬ともなると豹変する。雪が下から吹いてくるのだ。吹雪の中の運転を初めて経験したが、ほんの2、3メートル先しか見えないのである。しかも道路の所々に吹き溜りが出来ていて、突っ込むと車が埋まってしまう。吹雪は数日続くこともざらにあり、やたらと町内で起きた交通事故の患者が救急車で運び込まれるし、他所へ救急搬送しようにも国道が閉鎖されていたりする。無論、ドクターヘリなど飛べるはずもない。天気さえ良ければ、冬の国道は夏よりむしろ速く走れたりするのだが、それは速度違反の取り締まりをやってないからだ、と思うがあくまでもこれは自己責任。北海道の本土というか、離島でない所という意味だが、やはり雄大だ。何十キロと走っても車に会

わないことすらある。住んでいる人よりも牛の方がずっと多い町で、子供たちも素朴で、あまりいじめ問題などもないらしい。都会で子供たちがいじめにあって悩んでいるなら、家族をつれて北海道の僻地医療に携わるのも良い解決策かもしれない。

と言ってみてはいるが、ここにも、不届きもの流れ者医者あり、次の新天地を求めて行くことになった。何度もこここ異動しては、君こそ不届きもの流れ者医者じゃないのかと云われてしまいそうだが、そこはそうではないのでご理解いただきたい。もっとも、他人様に理解していただく筋合いのものでもないのだが。いずれ私が希求する僻地医療について論じてみたいと思うが、これはまた別の機会に。次は、日高地方のある病院へ行ってみようと思う。日高地方は太平洋側に位置する、冬も積雪が少なく気候温暖な所だそう。サラブレッドの産地で有名だ。いつしか理想の僻地医療実現を夢見て、北海道医療巡業の旅は続くのである。あるいは終着点かもしれない。また機会があればレポートしてみたいと思う。

地域の病院に想う

2

熱海にて淡海を憶う

国際医療福祉大学熱海病院 腎臓内科・漢方内科 教授
小野 孝彦(医2期生)



本年4月にこの大学に着任しました。主な担当分野は腎臓内科で腎臓病・腎不全診療のほか、移植外科があって腎臓移植へのサポートも守備範囲です。腎臓内科の業務以外に、漢方内科も開設して兼任しています。こちらの方は、患者さんを全人的に診て柔軟に対応し、また心身の不調に対して漢方治療を取り入れることによってクオリティ・オブ・ライフの向上をはかりますとうたっておりまして、不定愁訴の患者さんなども多く、いわば総合診療です。腎臓内科診療と漢方内科診療は、かたや標準的治療による臓器保護と、もう一方は個を重視した心身の調和という面で、互いに対極にある診療内容かも知れませんが、医療者にとってはバランスの良い二足のわらじのように思います。

3年前までの5年間は、静岡県立大学薬学部教授として腎疾患病態の基礎研究をしながら、薬学生に病気の講義を担当していました。医療としては外来診療主体でしたが、その後、医療人の養成は教室よりもベッドサイドがふさわしいと考え、3年間、市立島田市民病院で入院診療と急性期医療の再修練をはかり、この春の異動に至りました。国際医療福祉大学は、看護・薬学・リハビリ・ソーシャルワーカーなどの医療福祉系の総合大学で、皆様ご存知のように医学部の設置も準備中です。熱海病院は臨床研修病院でもあり、チーム医療の中で若手医療人の養成に貢献していきたいと思っています。

熱海は海から熱い湯が湧き出ていたことから呼ばれるようになった地名ですが、関東圏の保養地として利便性があります。マリンスポーツもさかんで、冬は温暖なため、週末や夏期・冬期の休暇中は、行楽客や別荘持ちの人々で多くの人が訪れます。私自身も大分県の別府市生まれ

で、この世に生を受けて以来、温泉になじんでいます。自宅は静岡市のため、新幹線通勤をしながらオンコールの平日は、格安料金で温泉宿に泊まっています。宿泊しない日でも、温泉につかって帰ることもあり、私の「帰りにちょっと一杯」は温泉のことになります。温泉の効用の1つとして、夕食後に入浴すると、その後は書類作成など残り仕事のことはどうでもよくなって、明日があるさということで、すぐに眠りにつくことにあります。温泉マニアとしてははずせないのは源泉掛け流しという条件ですが、当地にお寄りの節は、温泉コンシェルジュとして私にお問い合わせください(e-mail: takaono@clear.ocn.ne.jp)。

病院は相模湾に面した丘の中途にありますので、海が目前で、さらに初島が浮かんでいます。この情景を観ると、琵琶湖に浮かんだ竹生島が思い出されます。満月が海上に昇るときは殊さらで、謡曲 竹生島の「緑樹、影沈んで、魚、木に上る景色あり。月、海上に浮かんでは、兎も波を走るか。面白の浦の景色や。」の一節を口ずさんで、淡海を懐かしんでおります。写真は月が海面に浮かんだ夕暮れの初島、手前は遊覧船です。



月と初島

■第12回 看護学科交流懇談会 (H24. 3.10)

関西医科大学附属枚方病院 GICU 看護師

河村 翼 (看13期生)

滋賀医大を卒業して、早2年が過ぎました。現在は大阪の大学病院でGICUのNsとして勤務しています。交流会には今年で2回目の参加でした。毎年後輩に会う度「学生の間にもっと遊んでおけば良かった」と思います。働き出すと、なかなかゆつくり出来ませんね。

さて、交流会に参加してまず感じたのは、先輩方のお話の興味深さです。学生の頃は、仕事とプライベートの両立や国試対策など目先のことに耳を傾けがちでしたが、働き出してからは自分の病院や病棟・職種以外話を聴くと、大

きな刺激となります。私には「湖西で訪問看護師をする」夢がありますが、その為の情報交換や経験談を直に聴くことのできる、最高の機会を頂きました。学生さんの進路選びは、選択肢も広く、大変だと思いますが、ぜひ実習での学びや興味が沸いたことをきっかけとして、様々な先輩の話を参考に、自分の将来像を描いてほしいと思います。間違った道はないはず、どんな経験も必ず糧となります。最後になりましたが、企画・運営を下さった実行委委員の皆さん、貴重なお話を下さった先輩方、そして先生方、有難うございました。



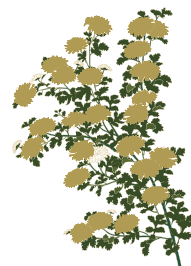
滋賀医科大学附属病院6A 助産師

護法 亜葵 (看13期生)

学生時代にあって、仕事を始めて少なくなるモノのひとつに“友人との語らいの時間”があると思います。職場の同僚はあくまでも知人であり、友人となりえる方は多くはありません。

看護を仕事とすると、学生時代に煩わしかった多くのことが愛おしく思えてきます。業務の中でたくさんの対象者とその家族と関わること、スタッフの中で“看護”の代弁者となること、本当に難しく常に疑問や障壁が現れます。その時に

是非同級生を思い出して下さい。2年間の実習で自分よりも“私”のキャラクターを熟知している友人達と自分の現状や思いを話し合えば必ず光明が射すはずです。交流会に参加させていただき、在学生の方のフレッシュパワーをいただくと共に、そのことを強く実感しました。久方ぶりに友人や素敵な先輩方そして先生方にお逢いし、在学生の方よりも私自身実り多い時間となりました。古巣に戻ることで、新しく飛立つ力を貰うのだと思います。本当に素敵な会をありがとうございました。



看護学科4年

田村 明音

第12回交流会代表を務めさせていただきました、田村明音です。私自身、今回初めて交流会に参加させていただいたのですが、今回代表として関わらせていただいたことで、滋賀医科大学看護学科のつながりの尊さを深く感じました。

当日の交流はもちろん、ご参加の依頼をした際にも、ご出欠の有無に関わらず皆さん大変親身にお返事を下さり、とても温かい気持ちになりました。また、ご参加いただ

いた卒業生の方々は、交流会のために勤務時間の調整をして下さった方ばかりで、交流会を無事開催できるのは本当に有り難いことであることを実感しました。

交流会を通して、今後の進路のことだけでなく、現在の学生生活の過ごし方についても深く考える機会となりました。また、笑顔でお話をされる先輩方を見て、「自分も将来こんな風に働きたい」と強く思いました。

最後になりましたが、開催に先立ち多大なるご支援をいただいた卒業生の方々、先生方、学生課の皆様、そして「湖医会」の皆様方に深くお礼申し上げます。

●陸上部

大槻 晋士

この度は「湖医会」の創設30周年という節目を迎えるにあたり、課外活動団体へ多大な援助をしていただきありがとうございました。今回はトレーニングルームの更なる充実を求めて、各クラブで話し合った上で共同で設備の強化をお願いすることになりました。その結果、以前ではもの足りないと感じていた部分を補えるような新しいトレーニング機器を複数いれていただき、一層の充実を図ることができました。現在それらの新しい機器を迎えて、それぞれに利用をさせていただいております。ト



レーニングルームの利用者は、部活に限らず個人的な目的の方から一部の先生まで幅広くおられますが、これを機にそれぞれの目標に近づけるように、ますますトレーニングに励んでまいりたいと思います。

改装の機会としてはまたとないものであったので、この計画が実現して本当に良かったと感じています。末尾にはなりましたが、この場をお借りして今回のトレーニングルームの改装に尽力してくださった「湖医会」の方々に代表として御礼申し上げます。

●ヨット部

成田 雄亮



この度は、「湖医会」の皆様のご厚意により、ヨット用品をご寄贈いただきました。中々、部員のみでは購入することができない高価なものをご購入いただきました。

本当にありがとうございました。現在、9月より活動を再開いたしまして、早速使用させていただいております。いずれのご寄贈いただきました品物も安全に活動する上で必要不可欠であり、非常に重用させていただいております。

去年の第63回西日本医科学生体育大会においては、470級において11年ぶりの優勝をはたしまして、部も非常に良い雰囲気活動させていただいております。「湖医会」の皆様のご厚意に心より感謝いたしまして、来年度の西医体、またインカレにおいてよりよい結果を出せるよう活動に励んでまいりたいと思っております。

最後になりましたが、この度は、ご寄贈くださいまして本当にありがとうございました。

●水泳部

渡辺満梨奈

水泳部は西医体、西コメに向けて、6月中旬から週3日の練習を行ってきました。昨年10月末から続く週



3日の自主練習もあり、夏は毎日泳ぐ人も大勢います。その結果、多くの部員が個人種目でベストタイムを更新し、表彰された部員もいました。また、リレーでは惜しくもメダルには届きませんでしたが、男女ともに大変いい結果を残すことができました。大会は広島県福山市で行われましたが、多くのOBの方が応援に来てくださり、部員たちはより一層気合いが入り、盛り上がりました。

先日、「湖医会」30周年記念事業寄贈の品でテントを頂きました。8月末日に他大学の水泳部を招いて行う大会で早速使用させて頂きました。屋外の大会などで利用させて頂きたいと思います。ありがとうございました。

●合気道部

山中 千尋



この度は、「湖医会」30周年記念に当たって、各部への物品の補助をして頂き誠にありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

私たち合気道部には投げ込みマットと、名札掛けを購入して頂きました。

新入生等初心者が慣れないうちに受身を量で練習し続けると、痛みを避けるために無意識に受身に癖がつくことがあります。初心者の合気道は基本的に型稽古ですので、見た目の受身の美しさも重要な要素の一つです。投げ込みマットは単純に受身の際の痛みを軽減してくれるだけでなく、そのような変な癖がつくことを防いでくれます。以前使用していたものが破れて使えなくなったため、非常に重宝しています。

名札掛けはOBOGさん方を含む初段以上の歴代部員の名前を掛けました。常に練習場に段位をもつ先輩方の影があることは、現役部員の励みになっています。また、その名札掛けに名前を連ねるといことが、部員の可視化できる目標の一つとなりました。これからも合気道部を宜しく願い致します。

●卓球部

OB・OGの先生方、いつもご支援いただきありがとうございます。私たち卓球部は月曜、木曜、日曜日の週3回体育館で練習しています。また学園祭などの行事はみんな楽しく和気あいあいと取り組む一方、卓球ではそれぞれのペースで集中して練習しています。

今年は新入生が4人入部してくれ、現在男子18人、女子11人の計29人で活動しています。人数が増えて練習にますます活気が出てきましたが、卓球台が足りないことがしばしばありました。今回「湖医会」から卓球台を寄贈していただき、より充実

●空手道部

北岸弥寿朗



空手道部は、現在部員は13名、活動日時は火曜日、木曜日、金曜日の18時から20時です。部員は初心者が大半で、その場の突き蹴りや移動の突き蹴りといった基本的な

動作を重点的に行い、その後、組手や形の練習を行っています。

大きな大会は春と秋に関西医科大学学生空手道選手権大会があり、夏には西日本医科大学学生総合体育大会の3回です。また、昇給審査は年3回あります。

部員の目標は、組手や形の試合で勝つことであったり、初段をとることであったりと各々違いますが、それぞれ目指している目標に向かって日々練習を積んでいます。

空手道において重要なことの一つとして体の軸、正中線を倒さないということがあり、動きの中で自分の正中線が崩れてないかを確認することは難しいのですが、このたび「湖医会」の皆様にご協力いただき、自分の動きの中で正中線がどのような状態であるのかを容易に確認できるようになり、部員の空手道の技術の向上に活用させていただいております。

このような物品を購入していただき部員一同、大変感謝しております。今後ともご支援の程、よろしくお願いします。

●卓球部

田村 亮太



した練習をすることが出来るようになり、大変うれしく思っています。今年の春期近畿医科大学学生卓球大会では男子ダブルスベスト8、女子シングルスベスト16などの成績をおさめること

が出来ました。ただ団体戦では思うような結果が残せませんでしたので、今後はより充実した練習環境を生かして、団体戦・個人戦ともに高い目標を持って練習に励み、良い結果が残せるように頑張りたいと思います。これからも応援よろしくお願いします。

2012年度「湖医会」総会のご案内

日時／平成24年10月28日(日) 15:30～

場所／滋賀医科大学臨床講義棟第1講義室

議題

- | | |
|----------------|----------------|
| 1. 2011 年度事業報告 | 4. 2012 年度事業計画 |
| 2. 2011 年度決算 | 5. 2012 年度予算 |
| 3. 会計年度の変更 | 6. 規程の改正 |

※多数のご出席をお待ちしております。ご欠席の場合は、委任状の提出にご協力ください。

琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース開催のご案内

(プライマリケア医の生涯学習促進を目的とした実用的なセミナーです。)

テーマ……プライマリケアにおける排尿障害(頻尿・尿失禁・排尿困難)の管理

講 師……荒木 勇雄先生(滋賀医科大学泌尿器科学講座准教授)

日 時……平成24年12月2日(日) 午前9時55分～午後4時30分まで(受付開始/午前9時30分)

場 所……ピアザ淡海会議室 大津市におの浜1丁目1番20号 Tel: 077-527-3315

参加費……医師…10,000円 / 研修医(初期)…1,000円 (昼食代を含みます。当日現金でお支払いください。)

申込み先…滋賀医科大学学生課学生企画係(小原)

E-mail: gkensyu@belle.shiga-med.ac.jp

Tel: 077-548-2068 Fax: 077-548-2799

申込み締め切り…平成24年11月22日(木)

※講師への事前の質問を歓迎します。上記申込先へご連絡ください。

※本企画は日本医師会生涯教育制度指定講習会(5単位)に認定されています。

(CC 1・2・5・8・15・64・65・66・67・80)

主催/滋賀医科大学琵琶湖プライマリケア・リフレッシュコース事務局

詳細及び応募方法については、滋賀医科大学ホームページをご覧ください。

(URL: <http://www.shiga-med.ac.jp/oshirase/121202.html>)

お知らせ

「湖医会」年会費の自動引き落とし

口座振替をご利用の方は10月12日、
一般VISAカードの方は10月15日となります。



なお、便利な口座引き落としのご利用を
ご希望の方は事務局までご連絡ください!!

お名前・住所・開業・勤務先・メールアドレス等
変更の場合は、メールまたはファックスで事務局
まですぐにご連絡ください。